

多様化する木材の土木利用

— 四国の実例を語る —

定員 先着100名
事前申し込み不要
参加費無料

日時 平成30年3月5日(月)

13:30—17:00

場所 高知会館 飛鳥の間(3F)

(高知県高知市本町5丁目6-42)



13:30~13:35 開会挨拶
13:35~14:45 基調講演
(講演60分+質疑10分)

14:45~15:00 休憩
15:00~15:30 話題提供1
15:30~16:00 話題提供2
16:00~16:30 話題提供3
16:30~17:00 総合討論



CPDS
認定講習
4ユニット

本講習会は、土木学会
認定の継続教育(CPD)
[3.3単位]
認定番号JSCE18-0103



基調講演

加藤 英雄 氏 (森林総合研究所)

「木製土木構造物の耐久性評価 —劣化現象をどう捉えるか—」

話題提供講演

松本 智江 氏 (愛媛県南予地方局)

「木材を利用した治山ダムの経年変化」

中村 博 氏 (兼松サステック株式会社)

「丸太打設による高知市新庁舎の液状化対策について」

林 聖淳 氏 (高知大学大学院総合人間自然科学研究科)

「土木利用木材の健全性評価の一例 ~高知県の構造物を例に~」

主催 四国土木木材利用研究会・高知大学防災推進センター・(公社)高知県土木施工管理技士会
共催 (公社)土木学会木材工学委員会
後援 (国研)森林総合研究所四国支所

四国は面積のおおよそ75%を森林が占めるなど、豊富な資源に恵まれてた地域です。高知県においても豊富な森林資源の活用と林業の活性化による地域づくりが進められています。近年では、液状化対策などの土木分野に国産材を積極的に活用し、地球温暖化対策と災害に強い国土の構築に貢献する動きが広がりつつありますが、コンクリートや鋼材などの工業製品とは異なり、利用にはある程度の知識が必要になります。特に屋外に設置された木製構造物は時間とともに腐朽が進み強度が低下しますが、木製構造物は設置場所の環境により腐朽の進行速さが異なり、時間が経つと部材が土に還る特徴があります。このことが、木材を土木利用するときの使いやすさにもなり、使いにくさにもなり、おもしろいところでもあります。

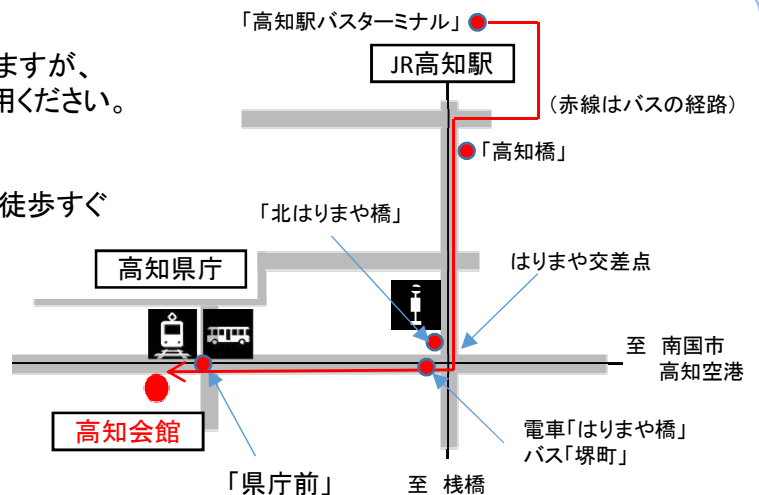
本シンポジウムでは、四国各地から様々な木材の土木利用事例を紹介し情報を共有するとともに、木材を土木利用する現状の課題を共有します。さらに、多様化する木材の土木利用について、今後の可能性を考えます。



会場へのアクセス

※会場周辺に、民間、市営の駐車場はありますが、会場へは、なるべく公共交通機関をご利用ください。

- ・ JR高知駅から
バス、路面電車で約15分、「県庁前」下車、徒歩すぐ
タクシーで約5分
- ・ 高知龍馬空港から
JR高知駅までバスで約25分
駅から、バス、路面電車、タクシー
空港発「県庁前」行きもあります
(ただし、11:10発と13:00発の2本のみ)
- ・ はりまや交差点から約1km
空港からバスの場合、「北はりまや橋」下車
バス、路面電車を利用するか、徒歩でも約15分



お問い合わせ

四国土木木材利用研究会（森林総合研究所四国支所内 担当：鹿島 088-844-1121（代表））